
言えないッ！！/沖神/ 3 Z

琴椿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

言えないッ！！／沖神／3Z

【Nコード】

N9995I

【作者名】

琴椿

【あらすじ】

ケンカばかりの毎日。

それでも俺は…。

「好き」だなんて、言えないよッッ！！

聞いちゃいました。 (前編) (前書き)

はじめまして、琴ちゃんです。(笑)

呼んではかりでわダメだと思っんで、たまには投稿…。

沖神、さいこーですッ♪

聞いちゃいました。(前編)

「…やべ。」

忘れてきちゃった。

俺は家路にっこうとしている生徒たちとは逆の方向へと歩き出す。

「総悟！？どこ行くんだ??」

後ろで土方コノヤローの声がする。

「忘れ物でさア！先行っててくだせエ!!」

「あれねーと寝ねねーんだよなア…。」

…ガキか俺は。

そう思いつつも愛用のアイマスクを取りに教室へと戻る。

「…お??」

ドアの向こうに見えるのは橙色のきれいな髪。

病気なんじゃないかと思ってしまうくらいに白い肌。

いつもケンカをふっかけてくるアイツの姿。

怒った顔も、笑った顔も、真っ赤な顔も…かわいいアイツの姿。

「神楽はさ、好きな人いないのお??」

「…え」

驚いて大きい声を出し過ぎた俺は、あわてて口をふさいだ。

「…い…いるよッ!!!!」

アイツの白い頬はどんどん赤く染まっていた。
…聞きたくて、でも聞きたくなくて…。

「誰…??」

…迫られた選択。（大げさか??）

「…ム力つくしサドだし可愛くないし生意気だし…。いいところなんてひとつもないネ!!」

…でも私、アイツの髪、好きヨ。笑った顔も…好きアル。」

「…え、まさか…。」

「…沖田。」

聞いちゃいました。

（前編）（後書き）

…ありえないですね、
沖神。

そこがいいのですが。

聞いちゃいました。 (後編) (前書き)

銀ちゃん为天パ、難しい。

…そんなに描かないですけどね。

聞いちゃいました。(後編)

「…沖田。」

…は???

…はアアアアアア!!??

…ありえねエ。

開いた口が、面白いようにふさがらなかった。

…アイツは、恥ずかしげに俯いたまま、それ以上何も言わなかった。そんななか、アイマスクごときを取りにいけるほど空気は軽くはな

…その日俺が一睡もできなかったのは言うまでもないだろう。

「…オメー、イケメンが台無しだぞ…??」

「…イケメンだなんてこれっぽっちも思ってたねーでしょ。」

銀八と軽く言葉をかわすと、俺は自席に戻って行った。

「…どーしたその目。」

「…っるせー、土方コノヤロー…。昨日あんまり眠れなかったんでイ

…。」

「…あの気色わりーアイマスクつけなかったのか?？」

「……。」

…今になって気がついた。

きつとあの不眠は、アイマスクがなかったからだけではない。

昨日の放課後のあの出来事が、ずっと頭から離れなかったのだ。

「昨日……。」

俺はしばらく黙りこんだ。

「おい……。口！にやけてるぞ！！なんだア？気持ちわりー……。」

「…へエ??？」

【誰のこと好き??？】

【…沖田。】

「…ほらまた!!！」

「へへへ〜」

「…朝からなにニタニタしてるネ、気持ち悪い!!！」

…元凶はあなたです。

聞いちゃいました。

（後編）（後書き）

沖田ははたして、

「へへへ」

…なんて笑い方をするのか？？

琴、特技はキャラ崩壊です。（笑）

…聞かれちゃった、テへ（前書き）

…テへ！？

…いいサブタイトル、思いつかなかったんだよう。

…聞かれちゃった、テヘ

「朝から何ニタニタしてるネ、気持ち悪い!!」

…元凶はお前だよ。

昨日のことを思い出すと、嬉しくて嬉しくて、二やけてしまうのは仕方のないことだった。

「…? 別人格アル…。」

彼女はその後、トッシーおはよー、とつけたした。

「…ほつとけよ、エンピツ転がったくらいで笑える年頃だぞ」

「ここではお前もおんなじ年頃ネ。」

「…ここではつて…。小説崩壊させるようなこと言っなよ」

「はい座れエチワワ二等兵!!…マヨネーズがうつるぞ神楽。」

「聞こえてんだよ! マヨネーズうつるって聞いたことねーぞ!!」

彼女は俺の変化に疑問を抱きながらも、しぶしぶ席についた。

銀八の授業はつまらないが、彼女を観察していれば飽きることはない。

真剣に取り組んでいても、時たまこっくり、こっくりと睡魔が襲ってくるようだ。

…それを俺が輪ゴムを当てて起こすのが日課だった。

「いだッ!!」

「命中」

「何するアル！！殺すぞッ！！」

ある時は本気で怒って。

「お妙さア、そろそろ俺と…。」

「死ねクソゴリラア！！！！！！」

「やれやれアネゴ！！！！」

ある時はバカみてーに笑って。

「うわあゝ酔昆布きれたアル！！おこづかい無いヨ…。」

ある時はちっせーことで泣きそーになって。

…そんな彼女だから、俺は彼女を好きになったんだ。

でもケンカばかりの毎日も楽しくて。

実らなくてもいいと思っていた。

「ケンカ相手」

俺たちは、一生こんな関係なんだって。

…あの日、教室での会話を聞くまでは。

…聞かれちゃった、テへ（後書き）

次が最終話です。

おっかぐファンのみなさん、最後まで付き合ってください！

聞かれちゃったと言ったきゃないッ!! (前書き)

最終話です。

おつかぐさん、あともうちよいキャラ崩壊させてください…。

聞かれちゃったと言つつきやないッ!!

「…なア、俺はお前が好きなのか？」

彼女は大げさによろけてみせた。

「そつ、そそそんなの私が知ってるワケないダロ…ッ!!死ねヨ!!」

…学校の帰り道。

「一緒に帰ろう」と誘ってくれたのは彼女の方だった。

…正直めちゃくちゃ嬉しかった。

…きれいな夕焼けで心がまひしていたのかもしれない。
思いもよらない言葉が口を突いて出てきてしまった。

「わからねーんでさア…。前まで俺ア、お前をただのケンカ相手と
でしか見てなかった…」

…好きになるなんて、思いもしなかった。

「酔昆布ッ!!」

いきなり彼女は俺の言葉を遮った。

「酔昆布…おごれヨ。」

(…話、そらしたな。)

きつと彼女は俺の口から出る言葉の意味に…。俺の気持ちに気づいてる。

でも、恥ずかしいから話をそらしたのだ。

「俺の話…。ちゃんと聞けよ。」

「今日…サドなんか変アル…。」

「…ってんなら、昨日のこと言っちゃうぞ?。」

「…は?何のこ…。」

「とぼけんな。昨日放課後オメーがどんな話してたか…。俺ア知ってるぜイ??。」

「ほつか…。んああああああああ!!!!!!???。」

「やアっと思い出したか」

りんごみたいに赤くなる顔。
それがすごくかわいくて。

「な…ッ、なんで…ッ／＼」

「…盗み聞き??。」

「…!!最ッ低アル!!。」

「…さアて、昨日のこと、ちゃんと説明してもらいやしょーか。」

「んんんんんんんん…／／／／／」

…俺はこういう性格だから、こんなやり方しかできない。
…素直になれないんだ。

でも…。

「ムカつくし…ッ！」

一歩、彼女に歩み寄る。

「サドだし…ッ」

また…一歩。

「か…可愛くないし、生意気だしッ…！」

「チャイナ…。」

「でも…ッ…！」

でも。

君が精いっぱい気持ちを伝えようとしてくれたから。

「好きアルッ」

「…好きだ。」

二人の声が、重なった。

俺は今にも泣きだしそうな彼女の唇に口付けを…。

できなかった。

「は??」

いや、したのは彼女ではなかったのだ。

「…酢昆布??」

(実は持ってたのか…酢昆布)

俺のファーストキスは、すっぱいアイツにことごとく奪われたってわけだ。

「いつも一方的でズルイアル!!今度は私がイジめる番ネ!!」
そう言っただけ、俺の胸ぐらをつかんだ。

ふわ…

「…ツノノバカ。」

「バカはお前アルツ!!バカバカ!!」

俺から離れた唇を、もう一度…。

ちゅ。

「俺に勝つことなんてできねーんだよ」
彼女は恥ずかしそうにほほ笑んだ。

「もっかい言って??」

「え…??」

「好きって」

「…言わないアル」

「…言えよ」

「言ったらまた意地悪されるからナ!」

…恥ずかしいからだろ。

…だから、

「好き」だなんて、

言えないッ!!

聞かれちゃったと言ったきやないッ!! (後書き)

終わりやした(^ー^;))

どーでした??グダグダだったっしょ??

「俺のファーストキスは…」なんて意味がわからないッ!! (笑)

これからも琴をよろしくお願いいたしやす。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9995i/>

言えないッ！！/沖神/3Z

2010年10月13日19時58分発行